令和６年度　全国学力・学習状況調査結果　分析と考察

１　調査内容

① 教科に関する調査（国語、数学）
・国語：「知識」と「活用」の合体問題
・数学：「知識」と「活用」の合体問題

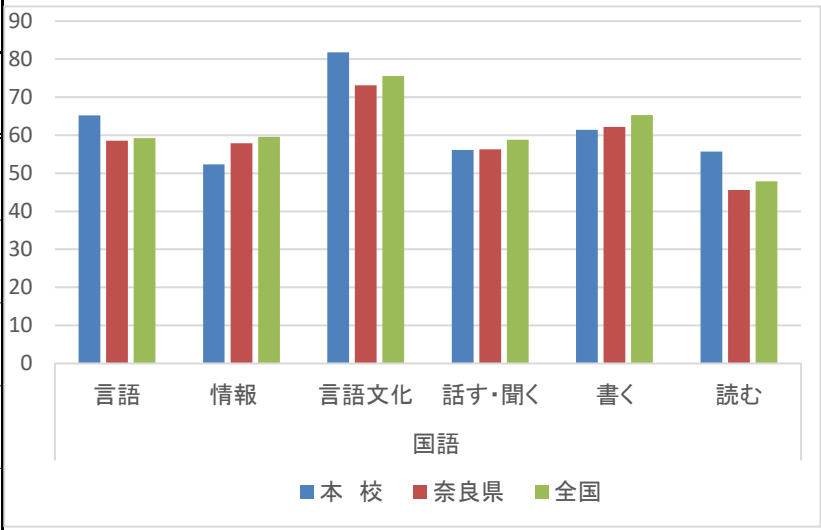
② 質問紙調査
・生徒に対する調査
・学校に対する調査

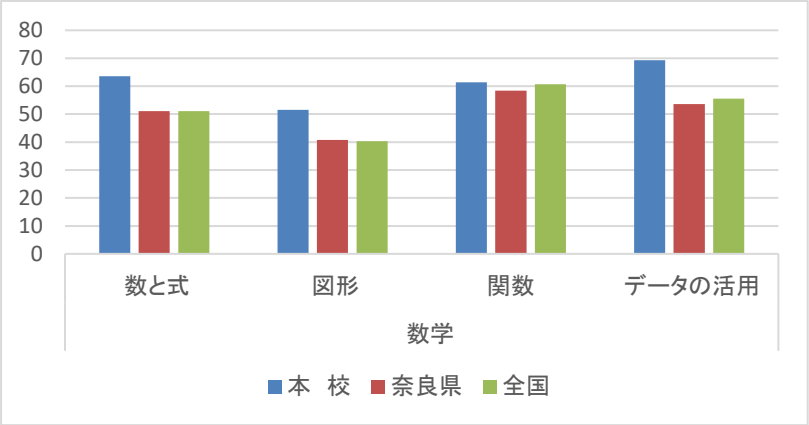
２　教科に関する調査結果の概要

令和6年度
全国学力･学習状況調査グラフ

平均正答率（%）

		本 校	奈良県	全国
国語	全体	60	56	58.1
	言語	65.2	58.6	59.2
	情報	52.3	57.9	59.6
	言語文化	81.8	73.1	75.6
	話す･聞く	56.1	56.3	58.8
	書く	61.4	62.2	65.3
	読む	55.7	45.6	47.9
数学	全体	62	52	52.5
	数と式	63.6	51.1	51.1
	図形	51.5	40.8	40.3
	関数	61.4	58.4	60.7
	データの活用	69.3	53.6	55.5





３　奈良県における、各教科の考察とこれからの課題

☆中学校国語における本県の傾向

記述式の問題形式に対する正答率が低い傾向にある。記述式の問題に対して無解答率も高く、そのうち最後まで書こうとした努力した割合が低く、解答時間が余った割合が高いという結果がみられた。正答、誤答、無解答に問わず、関係を捉えて理解したり、表現の効果を高めていったりすることに課題がある。

☆中学校数学における本県の傾向

国語同様に記述式の問題形式に対する正答率が低い傾向にある。記述式の問題に対して無解答率も高く、そのうち最後まで書こうとした努力した割合が低く、解答時間が余った割合が高いという結果がみられた。正答、誤答、無解答に問わず、普段の生活の中で活用できないか考えたり、別の解き方を考えようとしたりすることに課題がある。

４　本校における、各教科の結果と今後の課題

◎全体として

・小規模校において、経年変化の傾向は参考にしがたい面はあるものの、総合的に本校の平均正答率は、国語・数学の２教科とも、奈良県結果や全国結果より上回っている。今回の結果を受けて、学校における学習状況、家庭状況、生徒意識等との関連を考察しつつ、来年度以降も更なる結果向上に向けて指導方法、課題の解決を検討していきたい。

・今年度は言語に関わる理解や計算技能の分野などの基礎学力に定着がみられる。今後も授業や学びタイム等を利用して、常に既習内容を確認する学習を実施し向上を目指す。

・生徒の意識調査において学習した内容を常に見直し、次の学習につなげようと意識している生徒は８割に満たなかった。ICT等を活用して主体的に学びに向かい、基礎的な知識を応用・発展させる授業形態や自ら進んで家庭学習に取り組む指導が必要がある。

◎国語科における考察と課題

・『知識・技能』における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」や『思考、判断、表現力』における「読むこと」において、全国・奈良県の平均より上回った結果になっている。

一方で「話す・聞く」や「情報」の領域において全国・奈良県の平均をやや下回った結果になっているため、様々な話題をもとに他者との交流を深めていく必要がある。また記述問題に関する問いに対応していけるように様々な事象と関連付けて文章を作成していく取り組みを進めていく。

◎数学科における考察と課題

・「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の４領域で全国・奈良県の平均より上回った結果になっている。しっかりと学んだことを活用できている。しかし、評価の観点における「思考・判断・表現」の部分は奈良県・全国の平均を上回っているものの本校における正答率は低い。また、関数の領域分野も、毎年度他の分野よりも正答率が低く、学習内容を総合的に活用できていない実態がある。今後、数量関係を生活に生かしながら学習していくことや図を関連付けて説明する記述力、文章力を向上させていくことが重要であると考えられる。そのために基礎・基本の学力の習得を確実に行い、応用問題への対応を進めていく。

5　質問紙調査の結果抜粋

問題番号1

毎日朝食を食べていますか？	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	86.4	90.8	92.8
	令和4年度	87.5	90.4	91.9
	令和5年度	82.6	89.1	91.2
	令和6年度	79.6	88.6	91.2

問題番号9

自分には、よいところがあると思いますか。	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	86.4	71.6	76.2
	令和4年度	58.3	73.5	78.5
	令和5年度	78.3	77.9	80.0
	令和6年度	78.3	80.7	83.3

問題番号11

将来の夢や目標を持っていますか。	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	81.8	64.5	68.6
	令和4年度	62.5	65.7	67.3
	令和5年度	65.2	62.6	66.3
	令和6年度	69.6	63.1	66.3

問題番号13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	100	95.6	95.9
	令和4年度	91.6	95.9	96.4
	令和5年度	91.3	95.1	95.5
	令和6年度	91.3	94.9	95.7

問題番号33

学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	63.7	67.3	77.8
	令和4年度	66.7	69.2	78.7
	令和5年度	60.8	72.4	79.7
	令和6年度	91.3	80.2	86.1

問題番号38

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	72.7	48.4	70.2
	令和4年度	45.8	53.6	72.1
	令和5年度	69.5	57.0	72.6
	令和6年度	78.3	69.6	82.2

問題番号41

道徳の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和3年度	77.2	60.6	73.9
	令和4年度	58.4	76.0	85.5
	令和5年度	73.9	78.4	86.3
	令和6年度	95.6	86.2	91.7

◎本校における所見と考察

・基本的な生活習慣である、朝食･就寝時間等の項目において、全国・奈良県平均並みになっている。しかし、「毎日朝食を食べる」などの比率は今年度も全国・奈良県平均よりも低く、この改善には家庭の協力が不可欠なため、これまでと同様に保護者に働きかける必要がある。

・「学校にいくのが楽しい」と答えている生徒は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせて７割を下回っている。人間関係における状況を確認し、授業や学校行事における生徒の積極的な取組を工夫していきたい。

・自尊感情は、全国、奈良県平均より低い傾向にある。互いの存在価値やそれぞれの良さを意識させながら学校生活を送らせていきたい。

・「将来の夢や目標を持っている」に肯定的に答えた生徒も昨年より増加している。今後も日々の生活の中で生徒自身が選択したり、決定したりする場面を意図的に増やし、体系的・系統的なキャリア教育に取り組んでいきたい。

・「いじめを許さない意識」は昨年度と同じく全国・奈良県平均よりやや低くなっている。日々の生活の中で人権意識を高める活動や生徒会活動を活発化させながら、他人の立場を尊重しルールやマナーを守るといった指導を今後も行っていきたい。

・新聞を読んでいる割合が非常に低い。近年はインターネットを通じて様々な情報を得ているためかもしれないが、学校生活の中で新聞を読み取る力をつける必要性もあるかと思う。

・「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という項目は９１．３と非常に高い結果になっている。深い学びにつなげ、さまざまな考えを生み出せるように今後も継続していきたい。

・平日の「２時間以上」の家庭学習は全国平均より上回った結果になっているが、４３.５％と非常に低いように感じる。また、土・日曜日の家庭学習の２時間以上の確保ができていない傾向もある。家庭における学習計画をたてる習慣が必要であると思われる。

・本校では小規模校の利点として個別対応に取り組みやすく、授業カリキュラムに応じた個別指導を実施している。しかし生徒が少人数であるがゆえ、人間関係が画一的になりやすく、切磋琢磨しながら育ちあう部分や多様な価値観と出会う学びが得られないことに課題を感じる。学校行事や総合的な学習を通して幅広い学びが必要であると思われる。

5 学習指導の指針

○　各教科における基礎学力を定着させていく。
○　各教科ともに記述力に課題がみられる見解から文章を書く指導の大切さに留意する。
○　解き方の指導だけでなく、図や内容と関連付け考え方を大切にした指導を企てる。
○　生徒が積極的に疑問を持つような問題提起を準備する。
○　生徒が主体的に考える場面を設定し、考えたことを表現･交流する場面を設定し（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にした論議など）、言語活動を充実させる。

今後求められる指導改善

○　各授業において、生徒に学習目標を分かりやすく示し、生徒の理解度や実現状況を常に把握しておく。
○　知識や理解の学習に加え、自分の気持ちや意見を話したり書いたりする言語活動の充実を図り、さまざまな教科、時間、場面を通じて、主体的・対話的で深い学びを推進していく。
○　生徒に学習成果を実感させ日常生活に生かしつつ、自尊意識を高めさせる授業を構築していく。
○　自分で調べる場面でのICT活用だけでなく、自分の考えをまとめ、発表する場面でのICTの活用を行い、個別で最適な学びと協働的な学びを充実させる主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改革を行う。